

「明日と人権」

「人を大切にすること」や「相手を思いやること」。それは当たり前のようでいて、実はとてもむずかしいことです。でも、そうした思いの積み重ねこそが、人権を学ぶ上での出発点だと感じます。

私たちはこれまで、さまざまな人たちの思いから学び、人権について考えてきました。夏休み、私達は水平社博物館を訪れ、過去に差別を受けた人たちが、自らの尊厳を守ろうと立ち上がったことを知りました。展示資料を通して、部落差別の歴史だけでなく、「人として生きる権利を求めると」という強い願いを目の当たりにしました。その中で強く感じ、考えさせられたのは、差別は過去のことではなく、今も形を変えて続いているということです。

今回の人権の学びを通し、深く考えました。誰かを特別に傷つけようと思わなくても、何気ない言葉や態度が、相手の心を傷つけてしまうことがあること。反対に、ほんの小さな思いやりや言葉が、誰かを安心させること。人権を大切にするというのは、そうした“日常の中の選択”を意識することなのだと思います。

学びを通して気づいたのは、人権は「守るもの」ではなく、「育てていくもの」だということです。制度やルールがあっても、私たち一人ひとりの意識が変わらなければ、本当の意味で人が尊重される社会はつくれません。

そのために私達ができることは、三つあると考えました。

1つめは、知ること。 2つめは、考えること。 そして、3つめは、行動すること。

私は差別する人とされる人に分かれることのない空間を作りたいと思っています。人権は、特別な場面だけで考えるものではありません。友達との会話、SNSでのやり取り、クラスでのふるまい。その一つ一つの中に、人権を大切にできるチャンスがあります。

私たちはみんな違う存在です。だからこそ、互いの違いを認め合い、尊重し合うことが大切です。その積み重ねが、誰もが安心して過ごせる社会をつくっていくはずです。

私達はもう、人権について学び、知らなかったでは済まされない時代に生きています。情報がある今、声を聞く機会がある今、私たちには「知ったあと、どうするか」が問われています。

人権は、私達の毎日の暮らしの中にあるものです。私たちの小さな一歩が、きっと未来を少しずつ変えていきます。

では、あなたは明日、どんな思いやりの一歩を踏み出しますか？